

持続可能な公共交通に関する意見交換会及びアンケート調査の意見集計結果

1. 概要

【意見交換会】

現在までに実施した公共交通に係る事業とその結果を基に、本市に適した持続可能な公共交通の形について、各地区の地域住民と意見を交換した。

- ◇開催：令和5年1月～9月 市内13地区・各地区4回の計52回（自由参加）
- ◇参加：441人
- ◇意見：530件 内訳：具体的な要望193件、その他337件（市の事業への感想等）

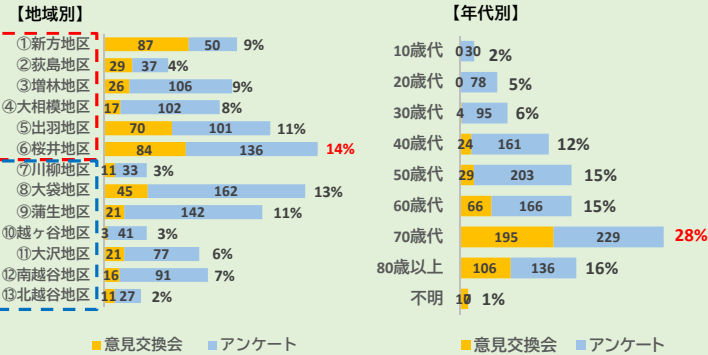
【アンケート調査】

本市に適した持続可能な公共交通について検討するため、市内在住の15歳以上の方、3,000人に無作為抽出で調査票を配布し、様々な世代・地域の市民から意見を聴取した。

- ◇実施：令和5年9月1日～22日
- ◇回答：1,106人（回答率：36.9%）

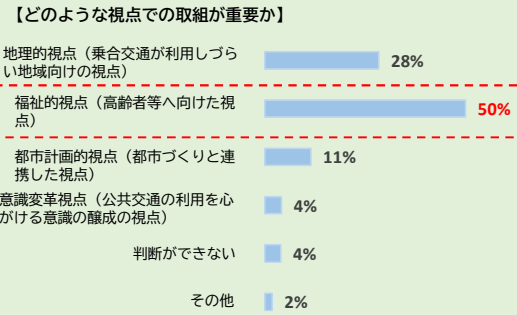
2. 主な集計結果（詳細は別添）

①参加者（回答者）について（P1～2、41）



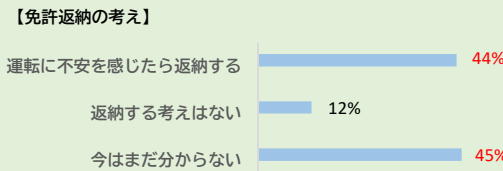
- 【地域別】で見ると、意見交換会では「①～⑥乗合交通が利用しやすい6地区」からの参加者が71%が多かったが、アンケート調査と合算すると「①～⑥乗合交通が利用しやすい6地区」から55%、「⑦～⑬乗合交通利用圏域の7地区」から45%の参加者（回答者）があり、両地区から概ね同程度の意見が得られた。
- 【年代別】では、70歳代が意見交換会、アンケートともに参加者（回答者）が最も多く、概ね高齢になるほど参加者（回答者）が多くなる傾向であった。

③今後の取組で重要な視点について（P35）

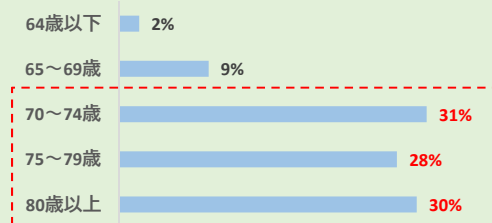


- 全ての年代・地域で「福祉的視点」と回答する人が最も多いという結果となった。次に地理的視点、都市計画的視点と続き、これらも全ての年代・地域で、ほぼ同じ傾向であった。

④運転免許返納の考え（P21）



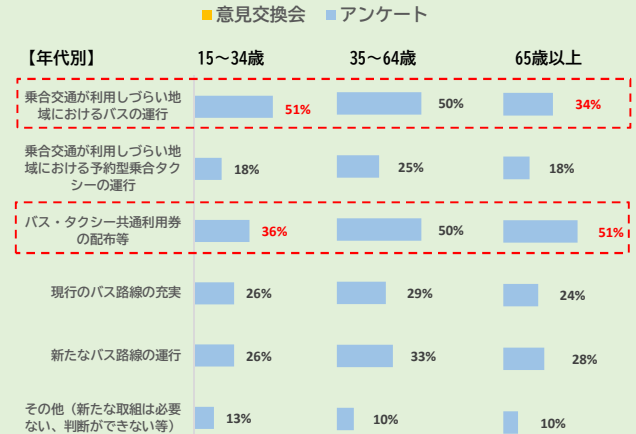
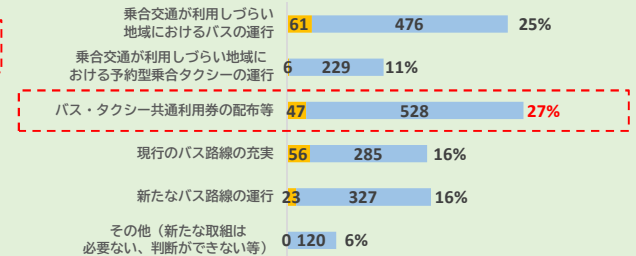
【「運転に不安を感じたら返納する」と回答した人に対し、「返納する想定年齢」を尋ねた結果】



- 免許返納の考えについて、「運転に不安を感じたら返納する」と回答した人（44%）に「返納する想定年齢」を尋ねたところ、多くの方が70歳以上から免許返納を想定していた。

⑤継続して実施することが必要な取組み（P3、36～37、42）

【アンケート問4-2「継続して実施することが必要と思われる取組み」と、意見交換会の要望数を合算】



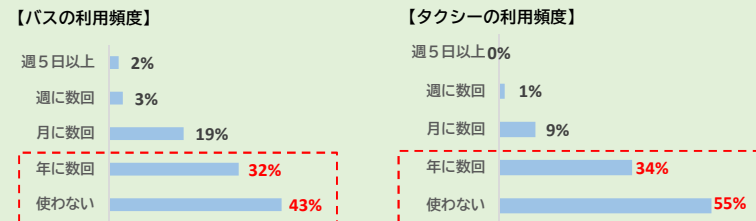
- 意見交換会では、「乗合交通が利用しやすい地域におけるバスの運行」が61件で最も多く、「現行のバス路線の充実」が56件、「バス・タクシー共通利用券の配布等」が47件と続いた。

- アンケート調査では、「バス・タクシー共通利用券の配布等」が528件で最も多く、次に「乗合交通が利用しやすい地域におけるバスの運行」が476件であった。

- 年代別では、若年層は「乗合交通が利用しやすい地域におけるバスの運行」が、高齢者は「バス・タクシー共通利用券の配布等」が最も多い。

- 意見交換会とアンケート調査の意見数を合算すると、「バス・タクシー共通利用券の配布等」が全体の27%で最も多い結果となった。

②バス・タクシーの利用状況について（P23～24）



- バスは75%、タクシーは89%の方が、「年に数回」または「使わない」と回答しており、あまり利用されていないことが分かる。

- 地域別では、バスを「年に数回」または「使わない」と回答した人は、「乗合交通が利用しやすい6地区」で71%、「乗合交通利用圏域の7地区」で80%であった。また、タクシーを「年に数回」または「使わない」と回答した人は、「乗合交通が利用しやすい6地区」では89%、「乗合交通利用圏域の7地区」では90%であった。（P23～24）

- 市内を移動するときの主な交通手段は、「自家用車（自分で運転）」と「自転車」が同程度で多かった。（P22）